

惜別の言葉

学長 原 純 子

平成7年度で本学の至宝とも重鎮ともいふべき三人の先生方が退職されました。御三方に対する御礼と名残り惜しさは、私のつたないことばではとてもいづくされないことを痛感しております。

第一に岩崎秀二先生です。先生は私と同じ時期、創立まだ日の浅い昭和43年以来の先輩的同僚でした。長いご研鑽と深い教育歴の成果として当然ながら、本学名誉教授号が贈られました。御同慶にたえません。今後もしばらくの間は側面から教育にご協力賜ることになっております。

経済原論II（近代経済学）を主に、経済変動論、演習、外書購読を担当され、やさしく、また、熱意溢れる講義を続けられました。本学の卒業生で近代経済学を学ぶすべての者が先生の薫陶をうけ、社会人となった後も役立っていることと思います。

先生は日頃から、学問には情熱をかたむけ、きびしく時としてがんに本質を追求する一面で、やさしい温和なご性格で、ゼミにはいつも学生が溢れておりました。着任直後には学園椿森寮の寮監をかねられ、多用にお過ごしでした。これには令夫人のご協力あつてのことと拝察しております。そしてまた、昨年の本学園70周年記念誌の編集委員長としてのご苦労は並々のものではありませんでした。大学だけでなく、全学園規模の事業でしたが、その編集では独特の能力と熱意で見事な冊誌をつくっていただきました。今一度改めて御礼申し上げたいと思います。

いま専任としての先生とのお別れに際し、オールドリベラリストの風貌を残し、興いたれば、サンタ・ルチアを歌われた一面も思いおこして感無

量のものがあります。職員さんにも読書をすすめられた勉強家の先生は、今後の人生設計でも輝く時期を楽しめますよう祈ってやみません。

第二は吉田治先生です。千葉大教授を定年退官され、直ちに本学専任教授として赴任され、以後の5年間をハードに活躍なさいました。千葉大文理学部助手を振り出しに、助教授、教授と昇進され、51年には同大評議委員、大学入試センター教授も兼ねられ、58年から4年間、教養学部長の要職にもついておいでです。教授のご業績とご功績から、千葉大名誉教授を授与されたことも申し添えさせていただきます。

先生は千葉大で教鞭をとられるかたわら、ずっと以前から本学にもご出講で、生物学をご担当下さいました。理学博士号をおもちのその道の第一人者で、学生達に興味深い授業を続けられ、今後もしばらくお手伝いいただきます。

とりわけ印象深いことは、本学の定年もギリギリまで、将来計画委員長として真摯にとりくんで下さったことです。先見性のある企画で大変むづかしい教授会をリードして下さいました。吉田先生のご努力とその他の先生方のご助力でコース制、新科目、セメスター制などが導入され、新しい息吹を感じるカリキュラムが出来上がりました。

更に特筆したいことは、先生のきわめておだやかで円満なご性格のことです。激しい議論で、とかくギスギスし勝ちな雰囲気は、おかげさまで随分とスムーズに進展したことを忘れることができません。

今後も非常勤講師として講義を担当して頂くほかは、「晴耕雨読」とはいかないまでも、生物学者として小花などをめで給う日々を念じているとうかがっています。とはいえ社会的声望の高い先生のこと、お声がかりが多く当分はご多用のことと存じます。先日「随分とコキ使っていただきましたね！」と仰言ってにこやかに破顔された先生、ほんとに申し訳なく、かつは誠にありがとうございました。

そして第三は島崎旺先生。さきの吉田先生と同じく千葉大教授を定年退

官後、直ちに本学において頂き、体育理論、同講義を5年間担当なさいました。千葉大教育学部に所属され、58年から大学院の教育学研究科も指導されておりました。もちろん、先生も数多いご業績とスポーツの面での活躍から千葉大の名誉教授を授与されておいでです。体育、運動、健康などに関してのご労作が多く、県の体育協会の監事、東京オリンピックの際には日本体育協会から選出されて、体操競技の役員をされるなどこの方面でのご功績は枚挙にいとまがありません。

先生はやはりやさしくおだやかな言動の方ですが、時にはしっかりとご自分の意志を通されることもありました。長身、細身（年令の割には）でかくしゃくとした芯の強さを感じさせる方です。昨年かなり大病をされましたが、幸い経過は順調でした。も少しのご休養をと申し上げても、早々に授業を再開され、教授会などにも出席なさいました。「こちらに奉職しているのだから、一日も早く出校したい。少々無理しても、はってでも学校に」と職員にもらされたとか。そのすばらしい硬骨漢ぶりが目に浮かびます。先生も非常勤講師としてしばらくお手伝い頂きますが、最近再び体調を崩されたとか、大変案じております。早く快復されて再びあのお元気な笑顔に接したいと心から念じております。

以上、お三人の先生方の今後の実り多い熟年生活が永続されること、そしてわれわれのよいお手本になって下さることをねがって筆をおきます。

[追記]

5月になって訃報に接しました。この三番目に書かせて頂いた島崎先生です。4月7日にお亡くなりになりましたが、故人のご意思で発表されなかったとのこと。このことにも先生のお人柄の一端がしのばれ、惜しい方と思う気持ち切です。ただひたすらに、また心からご冥福をお祈り申し上げます。